

2021年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1473200937	事業の開始年月日	平成16年5月1日
		指定年月日	平成16年5月1日
法人名	有限会社横浜ソフトケアサービスセンター		
事業所名	フレンジィ都岡		
所在地	(〒241-0031) 横浜市旭区今宿西町296		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員計	18名
		ユニット数	2 ユニット
自己評価作成日	令和3年12月3日	評価結果 市町村受理日	令和4年4月25日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

事業所理念に掲げている「大きい家族として共に暮らす」を軸に、利用者様と近い意味での近い距離感をもって接し、笑顔で毎日の生活を過ごして頂けるように心がけ支援しています。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和4年2月12日	評価機関 評価決定日	令和4年4月11日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は相鉄線「鶴ヶ峰」駅からバスで10分乗車し、「農協前」バス停下車し住宅街の角にあり。2階建て木造建物が離れて2つの建物からなる2ユニットのグループホームです。家庭菜園もあり周りに建造物のない静かな環境です。

<優れている点>

開設18年を迎え、利用者、職員みんなが穏やかに暮らす工夫が培われています。リビングでは、一人ひとりに小テーブルが置かれ、好きな塗り絵などをしたり、テレビを見たり、会話をしたり、自由でいながら落ち着いた時間が過ごせるよう配慮しています。壁には職員に向けて「フレンジィ都岡十カ条」、利用者向けには「人の悪口は言わない。…優しい気持ちを持ちましょう」と仕事の目標、人への気遣い心がけを掲示しています。経験の浅いスタッフをベテランスタッフが指導し、外国人スタッフの学びを支える関係にも繋がり、事業所はコミュニケーション重視の対応に努めています。「大きな家族として共に過ごす」理念が生きています。

<工夫点>

日々の介護記録に番号をふり介護計画作成に繋げることで生きた計画になっています。また、コロナ禍にあり行事の開催が難しい中でも、車で何度も往復し全員で初詣へ出かけるなど、様々なイベントを毎月のように実施して利用者の楽しみに繋げ、地域との関係維持にも努めています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	12～16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	17～23
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	フレンディ都岡
ユニット名	1号館

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念をふまえて介護現場で実践している。	掲げる4理念のうち「大きい家族として」「地域に住む一員として」共に暮らすを中心の拠り所として運営しています。ユニット会議で自然に伝わるよう管理者が示しています。利用者と家族のように接する話しかけを大切にしています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	利用者と買い物に行き、地域とのつながりを切らさないようにしたり、ご近所さんとの挨拶はかかさないようにしている。	事業所のイベントに地域の人にも参加してもらい、地域のイベントには利用者也参加する相互交流を図っています。コロナ禍の今は自治会の行事は中止となり、副自治会長への挨拶に留まっています。コロナ収束後の交流を計画しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	利用者と外出する事で顔見知りの関係を築く事を心掛けています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	書面での開催にはなっていますが2ヶ月に1回の開催をし構成員の方からの激励やご意見を励みにしサービスの向上に努めています。	コロナ禍により現在の運営推進会議は書面開催ですが、民生委員、地域ケアプラザ職員、ホームオーナー、利用者が参加する会議では活動報告し、具体的な助言を受けています。風呂場の手摺修理や人手不足改善に繋がっています。管理者はアウトプットの機会と捉え考えを深めています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	旭区役所には1カ月に1回を手続等で訪れていて、そこで相談させて頂いています。	旭区の高齢障害課と保険更新時、運営推進委員会報告をしています。生活支援課とは、生活相談、特別養護老人ホームの申し込みなど、情報共有して協力関係を保っています。グループホーム協議会の交換交流、地域ケアプラザ研修会も情報共有の場としています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束についてどのようなケースがそれにあたるか等話し合いをしたりし、運営推進会議の構成員の方々にも委員を兼ねていただいて身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	契約書に身体拘束禁止、利用者の行動制限をしないことを明示しています。利用の多い車いす対応者のエレベーターの付き添いは、付き添いが必要な人、一人での乗車でも良い人など、安全確保の上で自由度を考慮し個々の状況に合わせて決定しています。	ユニット会議での研修の持ち方を職員一人ひとりがケアについて主体的に考えられるよう当番制を敷くなど検討が期待されます。
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待についても同様に職員間で話し合いをし、どのようなケースが虐待にあたるかの理解を深め虐待が見過ごされないよう努めています。	法令について周知して、年1回県の一斉点検を活用し自己点検シートでチェックしています。職員間で話し合える関係を保ち、管理者に率直に報告できるよう努めています。ユニット会議の中でも、利用者への言葉遣いに注意を払うよう話し合いをしています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	利用者の権利擁護についてどのような制度をりようする事が出来るか等、その都度調べたり区役所の担当に聞いたりし個々に必要な支援をできるよう心がけています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居の際は、契約に関する説明を行い、改定等の際も都度説明をし理解して頂くよう努めています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議に利用者も参加して頂き、要望を外部者へ表せる機会を設けている。	コロナ禍でも面会の機会をなくさず居室で行っています。利用者に変化があった時など、頻繁に家族へ報告し、意見などが言いやすいようにコミュニケーションを図っています。外部評価受審時に行う家族アンケートのまとめを熟読しケアに活かすよう努めています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員と管理者が話しやすいような関係を築いているので意見や提案を反映させる環境になっています。	職員には居室担当やイベント担当などの担当制を取り入れたり、ユニットの備品などの購入について、各々が責任を持ち主体的に行動できるよう、意欲向上による人材育成に努めています。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員の能力や勤務状況に応じて評価をし給与に反映させる事で向上心を持って働けるような職場環境になっている。	職員の研修受講を推奨しています。研修受講を給与にも反映しています。管理者は職員とのコミュニケーションに務め、人間関係の構築を進めています。外国人スタッフの仕事に対する熱心さをサポートし働きやすい環境に繋がっています。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	ベテランスタッフが新人の教育に熱心に取り組んでくれているので働きながらトレーニングできています。	ベテラン職員をエンゼルケア（逝去時のケア）講師として指導に当て、経験の浅い職員を育てる環境を設定し、双方の就業意欲の向上に努めています。看取りの経験はありませんが、医師が判断基準を示し連絡してくれた例から内部研修を深めています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	ネットワークづくりを模索しサービスの質の向上につなげるようにしていきます。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ご本人とコミュニケーションをしていく上で不安に思っている事や要望等に耳を傾け安心して暮せるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族とのコミュニケーションを大切にして入居に対して不安に思っている事や要望などを聞き、出来る限り対応できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居時のご家族との面談等から得た情報をもとに他に必要なサービスがある場合は出来る限り対応するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	利用者が暮らしていく上で日常的なお手伝いをお願いし一方的な関係ではなく、共に暮らす一員としての関係性を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	必要な場合はご家族にも協力をお願いし、共にご本人を支える関係性を築いている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご本人が大切にしていく場所や人がいる場合はその関係性が途切れないよう努めている。	将棋、カラオケ、絵、手伝いなど、利用者の好きなことを把握し、生活の場で取り入れるよう努めています。利用者から「やることがあれば言ってね」の言葉も大事に受け取り、洗濯物干しや畳みなど、役割を持ち共に暮らす一員としての関係性も大切にしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士の関係性を把握し職員が間に入りコミュニケーションをすり事で孤立しないような支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービスが終了してもご本人やそのご家族からの要望がある場合は相談、支援を行うよう努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常のコミュニケーションからその人その人の希望、意向を把握し出来る限り対応できるよう努めている。	日常の中で「食べたい」、「行きたい」など、利用者の思いを叶えることに努めています。希望の多いメニューの寿司は外食を自粛している現在は、花見の際に実現させたり、購入して食べるなどの工夫をしています。コロナ禍前は利用者にとって懐かしい思い出の川崎大師へも出かけています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居の際に生活歴、生活環境、馴染みの暮らし方、サービス利用状況等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	行動記録、バイタルチェック表などの記録を通じて一人ひとりの現状把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ご本人やご家族、訪問ドクターとのコミュニケーションから得た情報を活用しユニット会議で話し合い意見を吸いあげ介護計画に反映している。	介護計画は、6ヶ月ごとのアセスメントとモニタリングを基にユニット会議を行い、利用者や家族の要望と医師、看護師の意見を反映して作成しています。介護計画の見直しは6ヶ月ごとに実施しています。状態に変化がある時は随時見直しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別に行動記録を記入し、職員間での情報共有にそれを活用し介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	その時々生まれるニーズに対応できるよう職員間で話し合い、柔軟な支援が出来るよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	その人、その人に応じた地域資源を把握し出来る限りそれを活用し豊かな生活がおくれるよう支援している。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	ご本人やご家族の希望に添ったかかりつけ医を選択して頂き、訪問ドクターへの報告、相談をこまめに行い、関係構築に努めている。	全員が、内科の2つの協力医のいずれかをかかりつけ医とし、月2回の訪問診療を受診しています。皮膚科などの専門医の通院は、職員が付き添っています。訪問診療や通院の受診情報は、担当職員が連絡帳などに記録するほか、申し送りでも共有しています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	緊急連絡先である病院に適宜連絡し対応の指示を受け都度受診できるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	提携病院や定期受診している病院等に相談し情報の共有に努め、よい関係作りに努めている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	終末期を迎えそうな利用者については家族に連絡し事業所として出来る限りの対応をしている。	入居契約時に「重度化した場合における（看取り）指針」を説明する際、現在、事業所では看取りを行っていないことを説明し、同意を得ています。今年度、医師の意向で例外的に1件の看取りを行いました。それに合わせて、看取り研修を実施しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変対応については避難訓練の際に講習をして頂き、適切な対応ができるよう実践力を身に付けている		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	夜間想定避難訓練を通じて全職員がその方法を知る機会を定期的に設けている。その際は地域の方にも告知している。	災害対策用マニュアルを整備して、6月に夜間想定避難訓練を実施し、2月の設備点検の際に消防訓練も実施しています。避難訓練の際は、地域住民にポスティングで実施日時などを伝えています。災害用備蓄品はリストを作成して、食料と飲料水を確保しています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	その人その人の人格や個性を受け入れ、尊厳を守るような言葉がけに配慮するよう心掛けている。	職員は、入職時に接遇について学んでいます。利用者は、名字に「さん」を付けて呼んでいます。行動記録などは利用者名を使わず利用者番号で記載しています。また、記載する場合は、利用者が側にいないことを確認するなど周辺に十分配慮して行っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	利用者が日常を過ごすうえでコミュニケーションを通じて発している希望や主張に耳を傾け自己決定できるよう支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者それぞれの生活リズムを大切にし出来る限り個々のペースで暮らせるよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	入浴の際はご本人と一緒に部屋で洋服を選んだりし、その人の好みの恰好が出来るよう支援しています。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事の際は利用者の意見を取り入れメニュー通りではなく、時にはアレンジを加える事もある。片付けに意欲的な利用者には積極的に行って頂いている。	専門業者の献立と食材を使用して、職員が調理しています。利用者は、食器拭きや下膳などを手伝っています。利用者の状況に合わせ、ミキサー・刻み食を提供しています。クリスマスや正月などの特別食のほか、職員が購入してきた寿司やピザも提供しています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量や水分摂取量はチェック表を用いて把握し一人一人の状態に応じて対応できるように支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、口腔ケアを行い汚れや臭いが生じないように支援を行っています。ご自分で口腔ケアが行えない利用者にはそのお手伝いをしています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表を活用し個々の排泄パターンを把握しトイレで排泄ができるよう支援をしています。	排泄チェック表で把握した排泄パターンに基づく定時誘導や、利用者の様子や仕草に基づく随時誘導を行いトイレでの排泄を支援しています。誘導の際は、小声で話しかけています。夜間は、睡眠優先や定時誘導など個人の状態に合わせた支援を行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	便秘については飲食物での工夫やトイレに行った際に腹部マッサージを行いできる限りトイレでの排便ができるよう支援をしています。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴表を用いて衛生上の管理、個々に合わせた入浴ケアを行っている。	週2～3回、午前中の入浴を基本としています。入浴を好まない利用者には、職員や曜日・時間の変更で対応しています。利用者には、菖蒲湯や柚子湯のほか、職員との会話や入浴剤などで楽しく入浴できるよう工夫しています。また、同性介助にも対応しています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	個々に合わせて日中、休息をして頂いたり、その人の生活リズムで就寝して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の説明書はファイリングしており、すぐに確認できるような場所に保管している。訪問ドクターと相談しその症状に合わせて薬の調整をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	1人1人に有する力を活かし役割をもって頂いたり、楽しめるようなことを提供したり張りのある生活を送って頂くよう支援している。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	個々の希望にそって外出できるよう、できる限りの支援を行っている。ご家族との外出の支援を行っています。	希望者を対象に、散歩を兼ねて日用品を買い物するレクリエーションを実施しています。ベランダで外気浴を楽しむこともあります。コロナ禍により、今年度の初詣や花見には車で出かけています。利用者の外出歴は行事記録で把握し、利用者の外出に偏りがないようにしています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	本人の希望により金銭の所持、買い物を楽しむ支援を行っています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご本人、ご家族の希望がある場合は電話でのよりとりが出来るよう支援をしています。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共有スペースは第一に衛生に気を配り、不快にならないような空間を保ち季節に応じた装飾をし居心地よく過ごして頂けるよう心掛けている。	共有空間は、大きな窓や天窓から日差しが差し込みゆったりしており、車いすの動線も確保しています。温度・湿度管理は、エアコンや加湿器を調整して行っています。フロアの入り口には、誕生日会、クリスマス、初詣などの行事の写真を飾り付けています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	テーブルを細かく分けて、利用者の関係性にも配慮ういたスペースを提供しています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室にはご本人やご家族の意向を取り入れ使い慣れた物や飾り付けをして居心地よく過ごせるよう工夫をしています。	机、鏡台、テレビ、時計、仏壇や家族写真など、馴染の品や思い出の品を自由に配置して、個性的な居室になっています。居室内の物品の管理や整理整頓は、居室担当者が中心となり支援しています。安全対策として、離床センサーを設置している利用者もいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	トイレは常時点灯、各所に表示を置くなどして、自立した生活をして頂けるよう支援しています。		

事業所名	フレンジィ都岡
ユニット名	2号館

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念をふまえて介護現場で実践している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	利用者と買い物に行き、地域とのつながりを切らさないようにしたり、ご近所さんとの挨拶はかかさないようにしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	利用者と外出する事で顔見知りの関係を築く事を心掛けています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	書面での開催にはなっていますが2ヶ月に1回の開催をし構成員の方からの激励やご意見を励みにしサービスの向上に努めています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	旭区役所には1カ月に1回を手続等で訪れていて、そこで相談させて頂いたりしています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束についてどのようなケースがそれにあたるか等話し合いをしたりし、運営推進会議の構成員の方々にも委員を兼ねていただいて身体拘束をしないケアに取り組んでいます。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待についても同様に職員間で話し合いをし、どのようなケースが虐待にあたるかの理解を深め虐待が見過ごされないよう努めています。「		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	利用者の権利擁護についてどのような制度をりようする事が出来るか等、その都度調べたり区役所の担当に聞いたりし個々に必要な支援をできるように心がけています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居の際は、契約に関する説明を行い、改定等の際も都度説明をし理解して頂くよう努めています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議に利用者も参加して頂き、要望を外部者へ表せる機会を設けている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員と管理者が話しやすいような関係を築いているので意見や提案を反映させる環境になっています。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員の能力や勤務状況に応じて評価をし給与に反映させる事で向上心を持って働けるような職場環境になっている。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	ベテランスタッフが新人の教育に熱心に取り組んでくれているので働きながらトレーニングできています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	ネットワークづくりを模索しサービスの質の向上につなげるようにしていきます。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ご本人とコミュニケーションをしていく上で不安に思っている事や要望等に耳を傾け安心して暮せるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族とのコミュニケーションを大切にして入居に対して不安に思っている事や要望などを聞き、出来る限り対応できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居時のご家族との面談等から得た情報をもとに他に必要なサービスがある場合は出来る限り対応するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	利用者が暮らしていく上で日常のお手伝いをお願いし一方的な関係ではなく、共に暮らす一員としての関係性を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	必要な場合はご家族にも協力をお願いし、共にご本人を支える関係性を築いている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご本人が大切にしている場所や人がいる場合はその関係性が途切れないよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士の関係性を把握し職員が間に入りコミュニケーションをすり事で孤立しないような支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービスが終了してもご本人やそのご家族からの要望がある場合は相談、支援を行うよう努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常のコミュニケーションからその人その人の希望、意向を把握し出来る限り対応できるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居の際に生活歴、生活環境、馴染みの暮らし方、サービス利用状況等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	行動記録、バイタルチェック表などの記録を通じて一人ひとりの現状把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ご本人やご家族、訪問ドクターとのコミュニケーションから得た情報を活用しユニット会議で話し合い意見を吸いあげ介護計画に反映している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別に行動記録を記入し、職員間での情報共有にそれを活用し介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	その時々生まれるニーズに対応できるよう職員間で話し合い、柔軟な支援が出来るよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	その人、その人に応じた地域資源を把握し出来る限りそれを活用し豊かな生活がおくれるよう支援している。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	ご本人やご家族の希望に添ったかかりつけ医を選択して頂き、訪問ドクターへの報告、相談をこまめに行い、関係構築に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	緊急連絡先である病院に適宜連絡し対応の指示を受け都度受診できるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	提携病院や定期受診している病院等に相談し情報の共有に努め、よい関係作りに努めている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	終末期を迎えそうな利用者については家族に連絡し事業所として出来る限りの対応をしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変対応については避難訓練の際に講習をして頂き、適切な対応ができるよう実践力を身に付けている		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	夜間想定避難訓練を通じて全職員がその方法を知る機会を定期的に設けている。その際は地域の方にも告知している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	その人その人の人格や個性を受け入れ、尊厳を守るような言葉がけに配慮するよう心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	利用者が日常を過ごすうえでコミュニケーションを通じて発している希望や主張に耳を傾け自己決定できるよう支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者それぞれの生活リズムを大切にし出来る限り個々のペースで暮らせるよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	入浴の際はご本人と一緒に部屋で洋服を選んだりし、その人の好みの恰好が出来るよう支援しています。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事の際は利用者の意見を取り入れメニュー通りではなく、時にはアレンジを加える事もある。片付けに意欲的な利用者には積極的に行って頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量や水分摂取量はチェック表を用いて把握し一人一人の状態に応じて対応できるように支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、口腔ケアを行い汚れや臭いが生じないように支援を行っています。ご自分で口腔ケアが行えない利用者にはそのお手伝いをしています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表を活用し個々の排泄パターンを把握しトイレで排泄ができるよう支援をしています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	便秘については飲食物での工夫やトイレに行った際に腹部マッサージを行いできる限りトイレでの排便ができるよう支援をしています。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴表を用いて衛生上の管理、個々に合わせた入浴ケアを行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	個々に合わせて日中、休息をして頂いたり、その人の生活リズムで就寝して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の説明書はファイリングしてあり、すぐに確認できるような場所に保管している。訪問ドクターと相談しその症状に合わせて薬の調整をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	1人1人に有する力を活かし役割をもって頂いたり、楽しめるようなことを提供したり張りのある生活を送って頂くよう支援している。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	個々の希望にそって外出できるよう、できる限りの支援を行っている。ご家族との外出の支援を行っています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	本人の希望により金銭の所持、買い物を楽しむ支援を行っています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご本人、ご家族の希望がある場合は電話でのよりとりが出来るよう支援をしています。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共有スペースは第一に衛生に気を配り、不快にならないような空間を保ち季節に応じた装飾をし居心地よく過ごして頂けるよう心掛けている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	テーブルを細かく分けて、利用者の関係性にも配慮ういたスペースを提供しています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室にはご本人やご家族の意向を取り入れ使い慣れた物や飾り付けをして居心地よく過ごせるよう工夫をしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	トイレは常時点灯、各所に表示を置くなどして、自立した生活をして頂けるよう支援しています。		

2021年度

目標達成計画

事業所名 グループホーム フレンドィ都岡

作成日： 令和 4年 4 月 20 日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	12	職員がやりがいを感じられるような職場環境を作れていない。	職員のやりがいを感じられるような職場環境を作る。	個々の能力を見極め役割を振り分けモチベーションの向上に繋げるようにする。	12ヶ月
2	14	2ユニットありますがユニット同士の交流がほとんどない。	ユニット間の交流を持てるようにする。	イベント等を通してユニット間での交流を増やしていく。	12ヶ月
3	13	自施設内、外での研修が出来ていない。	コロナ禍で外での研修は中々厳しいが自施設での研修を徐々に出来るようにする。	人員に余裕が出来たら自施設での研修が出来るようベテランスタッフに相談し取り組んでいく。	12ヶ月
4	3・29	地域との交流がほとんどない。	コロナ禍ではあるが地域との交流機会を持てるようにする。	イベント等にお招きするのは中々厳しいが顔を合わせた時は積極的にご挨拶する。	12ヶ月
5	19	ご家族関係が以前よりは増えてきているがまだ少ない。	ご家族との関係をより深くしていく。	こまめに連絡し関係性を深くしていく。	12ヶ月